

コロナ渦における地域活動について

1 コロナ渦に必要な取り組み

令和元年末から新型コロナウイルス感染症が蔓延し、今までどおりの地域活動を実施できない状況が継続しています。特にも、人と人とのつながりをつくり、地域との関わりを持つきっかけとなる地域交流の事業が実施できない状況が続き、地域のつながりが希薄になっている状況です。

また、高齢化による担い手不足などの地域活動の運営についての課題も挙げられています。

このような状況を受け、「人と人のつながり」「地域活動に関わる人材の確保」に関する取り組みが必要であると考えており、次の事業に重点的に取り組んでまいります。

(1) 市内自治会の事業内容について情報共有

①開催方法を見直して活動している事例の紹介

- ・開催時期、開催方法、開催場所等の工夫
- ・事業の最適化、スリム化の実施

②他団体と連携して活動している事例の紹介

- ・近隣自治会との自治会事業の共同開催
- ・関係団体との連携による事業実施

③新たな活動を始めた事例の紹介

- ・若い世代や子育て世代との交流事業
- ・高齢者の安心安全のための事業

(2) スマホを活用した情報発信についての研修

①自治会の役員内での情報共有について

- ・役員会等の会議の開催案内
- ・事業実施にあたっての進捗状況の共有

②自治会の会員への情報発信について

- ・事業、イベント等の開催案内
- ・活動の報告
- ・地域内の危険箇所等のお知らせ

2 コロナ渦における地域活動の事例

(1) 臨時休校中の子どもを預かる 小岩井自治会（ふうりん寺子屋）

令和2年3月、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、市内の小中学校が臨時休校になった際、子どもを持つ住民から「行き場のない子どもたちがいるはず。」との声を受けて、自治会の福祉部と婦人部が主体となって、小学生を預かる「小岩井ふうりん寺子屋」を、土日を除く11日間開設しました。

寺子屋には、「見守り隊」と称する住民、地元の教員OBと高校生、大学生等のボランティア20名が交代で参加し、自習の手助けや絵本の読み聞かせのほか、工作やゲーム等が行われ、みんなで楽しく過ごしました。また、子どもたちが寺子屋へ登下校する際には、スクールガードが見守りを行いました。

今年度は、夏休み前と冬休み前に「ふうりん寺子屋」開催しています。小学生の自主学習のサポートだけではなく、世代間交流、工作や地域の歴史を学ぶ時間もあり、地域の人と子どもたちの交流の輪が広がっています。



(2) 飛散防止パネルを活用した交流事業 元村西自治会（お花見会）

自治会内の公園に、自作の飛沫防止パネルを設置したテーブルの間隔をあけて配置し、お花見弁当美味しく食べました。夜は桜のライトアップも行いました。



(3) 人と人の接触が少ない交流事業 法誓寺自治会（花火大会）

新型コロナウイルスの感染が拡大し、例年行っていた子ども会の「夏祭り」「夢灯り」「鮭の稚魚の放流」などの活動は、2年に渡り中止が続いていました。

「少しでも子どもたちに夏の思い出を作ってあげたい。」「地域で楽しみを共有したい。」という思いから、文化福祉部が企画立案し、令和4年7月、人と人の接触が少ない事業である「花火大会」を基本的な感染対策行ったうえで開催しました。

会場の滝沢小、滝沢中の校庭には、参加賞の光るリストバンドを手に巻いた子どもたちと家族、地域の方々が集まり、約10分間に60発打ち上げられた花火を鑑賞しました。参加者からは大きな歓声とともに笑顔があふれていました。また子どもたちには、参加賞として自宅用の花火セットも配布しました。



(4) 屋外での地域住民の交流事業 小岩井自治会（スタンプラリー、スタンプシート）

今までの実施していた事業を見直し、屋外で密を避けつつ集まることができる「小岩井スタンプラリー」と「小岩井いきいきウォークスタンプシート」を開催しました。

スタンプラリーでは、コースを歩く参加者がすれ違うたびに挨拶が交わされ、ご近所の人との久しぶりの交流の機会となったほか、地域のおすすめスポットや主要施設をチェックポイントにしたことで、地域を知る機会にもなりました。

また、参加賞や景品に地元の飲食店の引換券や商品を用意することで、地域の活性化にもつながりました。



(5) 高齢者向けスマートフォン操作研修 鶺鴒温泉自治会（スマホ教室）

近年、今まで使っていた携帯電話（通称：ガラケー）のスマホへの買い替えを余儀なくされ、特に高齢者は、買い替え後にスマホを使いこなせない状況であることを見聞きしていました。このことから、スマホ機能の学習機会を提供するとともに、コロナ禍でも、コミュニケーションの和（輪）が広がることを期待し、満65歳以上の方を対象とした「スマホ教室」を開催しました。

スマホ教室では、LINEの基本的な使い方やスマートフォンの機能の使い方を学んだほか、スマホでやりたいこと、使っていてわからないことの相談も受け付けました。

「スマホ教室」の受講をきっかけに、QRコードによる新型コロナワクチンの5回目接種予約ができるようになった参加者もいます。また、参加者同士のLINEによる会話が始まり、新たなコミュニケーションの和（輪）が広がっています。



(6) ホームページ、SNSを活用したチラシの回覧

柳沢自治会と岩手山麓柳沢地域景観形成住民協定者会「げんまん柳沢」

▽柳沢自治会の高橋雅寛会長(左)と
げんまん柳沢の吉田律子さん(右)



柳 沢

～HP、SNSでの
情報発信始めました～

～楽しく次世代のために～

岩手山東南麓の広大な山林と牧野を背景とし、約400世帯が生活する柳沢自治会では、HPやSNSを活用し多角的に情報発信をする動きが生まれています。

中心となって活動するのは、高橋雅寛自治会長と、岩手山麓柳沢地域景観形成住民協定者会「げんまん柳沢」の吉田律子さんです。

両氏は、市や地域内の回覧物、イベント情報などについて「柳沢ねっと」など、独自のHPやSNSを活用して発信すること

で、地域の皆さんに早く正確な情報を届けられるよう取り組んでいます。また、各ネットメディアのQRコードをまとめたチラシなどを地域で回覧するなど、活動の認知度の向上にも積極的です。

活動を始めた背景について吉田さんは「後継者の確保のためが大きい」と話します。「自治会に関わる人は高齢化が進み、後継を探している。少しでも活動の負担を軽くして、楽しい環境を作ったあげることが若い人をはじめと後継を見つけていくためには必要だと感じた」と熱く語りました。

高橋会長も「自治会の高齢化は顕著。役員などもなかなか次の人が見つからない。吉田さんから取り組みについて相談を受けた際は、ぜひ取り組んでほしいと背中を押した」と笑顔で話しました。

また吉田さんは「デジタル化に取り組むことで、地域の負担の軽減など、アナログ派が多い高齢者のためにもなる」と話します。「高齢化に伴い、紙媒体での回覧は班長などの負担も大きくなってきている。スマホやパソコンがない人は今まで通り紙媒体で見てもらおう一方で、SNSでの回覧がなじめば、紙の節約だけでなく班長などの負担の軽減にもつながる。HPやSNSを活用すれば、見たい人が見たい時に、素早く情報を得ることが出来る。認知度などの課題はあるが、地道に発信していきたい」と笑顔で語りました。

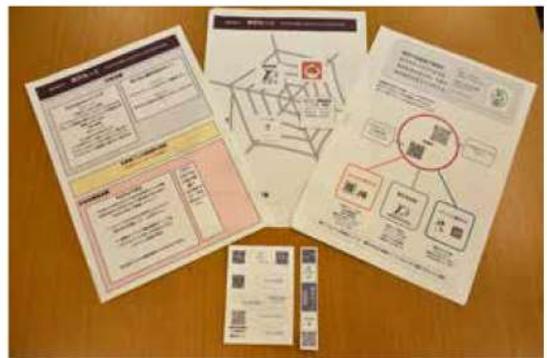
最後に吉田さんは今後について「班長が各戸を回って集金している自治会費を、ペイペイなどの電子マネーにより、楽に集金する道も探っていきたい」と意気込みました。



＜柳沢ねっと回覧板はこちら

今回は、高齢化などの地域の課題と向き合い、新たな取り組みにチャレンジする2つの地域をご紹介します。

市では、地域で頑張る皆さんの取り組みを、市内外に広くお伝えし応援していきたいと思っています。ぜひ市企画政策課（☎6566・6562）まで情報をお寄せください。



△チラシも活用し、HPやInstagramなどの周知にも取り組む

3 地域別計画の策定に向けて

(1) 主な策定経過

令和4年 5月16日 地域別計画全体説明会

令和4年 5月～6月 市内全11地域でふりかえりワークショップを実施

令和4年 7月～11月 市内全11地域でこれからワークショップを実施（各3回）

令和4年11月 8日 第2次滝沢市総合計画調査特別委員会で策定経過報告

令和4年12月 計画素案を作成

(2) 第1次地域別計画の地域のふりかえり

第2次滝沢市総合計画地域別計画の策定にあたり、はじめに現行の地域別計画のふりかえりとして、各地域による地域課題の達成状況と地域づくりの基本方針の取り組み状況などについて、ワークショップ形式による話し合いを実施しました。

地域の皆さんからは、ソフト面については、防犯、交通安全、地域イベントなどは達成および今後も継続する方向にありました（コロナ禍で休止している部分もあり）。一方で、高齢化、若い世代や子育て世代との交流の難しさ、担い手不足など地域活動の運営自体が困難になってきている地域が多く、後継者育成をはじめとした「人づくり」が重要な課題として挙げられています。

ハード面については、交通安全や災害対策、生活レベルの向上のため、道路・河川整備や上下水道整備の充実が多く挙げられておりますが、緊急性の高いものや行政の計画に基づいた整備は進んでいるものの、その他については引き続き要望活動をしていくものが多くありました。一方、地域の集会所の新改築については、具体的に取り組みが進み地域課題解消による達成地域が増えてきています。

現行計画については、環境が違うため達成状況に地域差があるものの、各自治会の役員をはじめ活動の中心となる人によって地域は守られてきており、未解決課題については地域のそれぞれの人の熱意により、次世代や未来に繋がっていくものと捉えています。

次期計画においては、時代の変化に伴う「新たな課題」、コロナ禍でさらに深刻化してきた「継承」、地域課題の解決に寄与する「ハード整備」などを地域の主要課題と捉え計画に反映していきます。一方で、「8年後の未来を考えにくい」、「項目が多く理解しづらい」など、課題や事業の加除修正はもとより、期間が長いことや計画の複雑さの改善に対する要望も多く挙げられました。

(3) 第2次地域別計画の策定に向けて

第1次滝沢市総合計画地域別計画の各地域によるふりかえりを鑑み、現行計画の継承と課題・事業の整理、そして、地域ごとの課題解決と幸せ向上を目指すことが出来るよう、次期計画の策定に対し支援していきます。

また、計画開始に伴い、毎年のふりかえりと計画検証を推奨していきます。これは、計画を常に最新の状態に保つことで、計画期間の8年にとらわれない地域の意識の高揚と、事業実行に向けた歩みを促進させることを目的として策定を進めます。

第2次滝沢市総合計画 元村地域 地域別計画（幸せ向上活動プラン）案

滝沢市における根幹の行政計画である「滝沢市第2次総合計画」が、令和5年度から令和12年度を期間としてスタートいたしました。そして、各地域とともにワークショップを開きながら、地域自らが実行していく計画である「地域別計画（幸せ向上活動プラン）」を策定いたしました。今後、振り返りをしながら各地域の幸せ向上のため、進めていきましょう。



目指す！
地域の姿

すこやかに安心して暮らせる
川と緑と名所を活かしたやすらぎのまち

●私たちの地域（地域の紹介）

私たちの地域は、滝沢市のほぼ中央部に位置し、南北に東北自動車道、主要地方道盛岡環状線が走り、また地域内には秋には鮭が遡上する諸葛川が流れ地域にうるおいをあたえてくれます。

平蔵沢の堤や滝の沢、五龍の藤、外山桜並木、湯舟沢ストーンサークルなど名所も多く、歴史と文化、自然や農地、住宅街の調和がとれた地域が形成されています。

●元村地域づくり懇談会

元村南、国分、元村中央、牧野林中央、南牧野林、法誓寺、元村東、元村西、元村北、あすみ野各自治会役員、元村地域まちづくり推進委員会、滝沢小学校、老人クラブ、子ども会育成会、地区生徒会保護者（順不同）

●計画期間

令和5年度～令和12年度



元村地域の位置

目指す！ 地域の姿

すこやかに安心して暮らせる 川と緑と名所を活かしたやすらぎのまち

地域の現状と課題

■元村地域の良いところ・魅力・自慢したいこと

- ・生活しやすい地域である(住宅や店舗が増え、学校も病院もあり便利。スマート IC や道路整備も進んでいる。)
- ・街並みが綺麗である
- ・伝統行事を大切にしている(角掛神社での祭りなど、地域交流の原点とも言えるものがある。)
- ・比較的若い住民が多い(滝沢市の他地域に比べ比較的若い住民や子どもの多い地域である。)
- ・各自治会での活動が活発である(10自治会で各自治会が地域の実情に合わせた活動を行っている。)
- ・豊かな自然環境がある(諸葛川などの豊かな自然環境がすぐ近くにある。)

■元村地域の課題や問題になっていること

- ・交通安全対策が必要である(交通の便が良くなった一方、交通量が増大。渋滞を引き起こすし、スピードを出す車、大型車も増えた。通学路など危険が増えた。・スクールガードが少なくなっている。)
- ・道路整備や交通施策が必要である(学童周辺の安全な道路整備が必要。バスの市中心部へのアクセスが悪い。)
- ・地域活動に関わる住民が高齢化している(班長等の役割分担が困難になっている。今後、空き家も増えていく。)
- ・除排雪に課題がある(雪が多い地区は、雪かきが大変(住民で対応するのも大変)である。)
- ・耕作放棄地が増えている(農家も高齢化し、耕作放棄地も増えている。)
- ・新しい住民と昔から住んでいる住民との交流が少ない(新しい住民(特に若い人)が多いことはよいが、昔から住んでいる人との交流が少ない。交流の機会を作ること、増やすことが大事である。)
- ・災害対策に課題がある(特に大雨の時、諸葛川、市兵衛川からの越水の可能性があり危険である。)
- ・安全に散歩できるところ、自由に楽しめるところが少ない(公園の規制は厳しい。各自治会に東屋くらいでよいので、自由に利用できる場がほしい。・空き家はあるが、安全面等管理が難しい。個人宅では気を遣う。)
- ・今後の自治会活動に不安がある(子育て世代は忙しく自治会活動に参加できない。)
- ・環境整備が難しくなっている(諸葛川、木賊川の草刈り等の作業を行う住民が高齢化してきている。)

目指すべきまちづくりの方向性

1. ～元村地域全体で協力する、次世代に繋げていくまち～

- ・方向性の理由
- 元村地域には10自治会があり、それぞれが活発に活動している。
- 交通安全対策、道路整備、災害対策など、10自治会で協力して話し合う場を設ける。
- 元村地域全体で、次世代に繋げていくような取り組みを進める。

2. ～誰もが暮らしやすく、便利で安心・安全のまち～

- ・方向性の理由
- 子どもから高齢者まで、誰もが安心・安全で、健康な暮らしができるまちとしていく。
- 交通安全対策、道路整備、交通施策などが行政と一緒に取り組んでいく。
- 地域の資源である河川環境などの環境整備事業に継続して取り組んでいく。

3. ～住民の交流を活発で、住んでいて楽しいまち～

- ・方向性の理由
- 若い世代も含めた世代間交流事業を行っていく。
- 高齢者が増加することも見込んで、自治会活動を継続していけるようにする。
- 地域の資源や伝統行事を大切に、新しい魅力づくりにも取り組む。

具体的な取組

1. ～元村地域全体で協力する、次世代に繋げていくまち～

取り組み項目(何をするのか)	実施方法(どのように進めるのか)
合同でのイベント企画する	・複数の自治会合同での行事(花火大会、川サミット、防災訓練、その他)の開催について、それぞれの自治会で検討することからスタートする
複数自治会にまたがる場所に拠点施設を設ける	・2, 3の自治会で、もっと住民が集まりやすい、楽しめ、利用できる自治会館的な活動センターや公民館を作る。(行政に要望をする。行政の考え計画を聴き懇談する)
自治会役員の負担軽減を目指す	・組織役員の選任の方法についてそれぞれの自治会で検討していく。参考となる他の自治会の役員選任方法について、情報交換をする。 ・それぞれの自治会での役員の負担軽減策を検討し、連合会などで情報交換する。
自治会マップづくりを行う	・元村地域の公共マップづくりを行う(高齢者・新住民に緑やベンチのある公園、神社や学校、公共施設などを紹介するマップを作る)
居住地できる場所を増やす	・移住促進のため、住宅地転用など、規制緩和の行政への要望を継続する。
自然を中心としたまちづくりを行う	・各自治会を流れる諸葛川があり、合同で川サミットのような企画を行う。

2. ～誰もが暮らしやすく、便利で安心・安全のまち～

取り組み項目(何をするのか)	実施方法(どのように進めるのか)
安全な道路整備を行う	・通学路となっており危険な道路の道路整備について地域で実情把握を継続し、行政に要望を続ける。
防災対策を行う	・各自治会で実施している防災活動を継続し、地域全体の防災への取組を進める。 ・河川の氾濫防止のための川底の掘削などの整備の要望を行う。 ・地域の特性に合わせたハザードマップをつくる。
地域の安全対策を行う	・危険な箇所を把握し、ガードレールなどの整備や速度規制のエリアを設ける。 ・子どもの見守り(交通指導員やスクールガード)の担い手を確保する。 ・散歩をしながらの「ながら見守り」や小学校の父兄に送迎時にベストを着用する。
草刈り等の環境整備を行う	・草刈り等の環境整備を継続していき、参加者を確保するために、子どもとその親に楽しみながら作業ができるような仕組みづくりを行う。
子どもが遊べる場をつくる	・公園等の遊び場の整備を行政と一緒に検討していく。
ゴミ置き場・ゴミ出しのマナーを徹底する	・ゴミ置き場のカラス対策やゴミ出しのマナーの徹底を行う。 ・盛岡市と接する自治会について、ゴミ置き場の設置場所を協議する場を設ける。
健康づくりを進める	・健康づくりのサロン活動・健康教室・介護予防教室を継続していく。 ・各自治会での検診率をアップさせる。

3. ～住民の交流を活発で、住んでいて楽しいまち～

取り組み項目(何をするのか)	実施方法(どのように進めるのか)
地域の魅力的な自然や農業を活用したイベントを行う	・活用できそうな自然環境の調査を行う(休耕田等の場所、イベントの場所等)。 ・子供が自然と触れ合う場づくり、グランドゴルフ場、ドッグラン、イワナのつかみ取りなどの企画を行う。 ・鮭の放流と遡上の見学会を子ども会と一緒に地域を学習する場として実施する。
歴史や文化を大切にした取り組みを行う	・角掛神社の魅力をもっと活用できるような取組を行う(トイレや駐車場の環境整備、五龍のフジのPR、歴史的な謂れ(坂上田村麻呂)の活用、子どもの相撲大会) ・チャグチャグ馬コの踊りの普及・啓発を行う。 ・地域の観光・まち歩きマップを作成し、ウォーキングやサイクリングに繋げる。 ・安墨野のストーンサークルの魅力を発信する。
若い人への地域活動への参加を促す	・若い人を取り込む情報発信を行う。SNSを活用し、得意なことを持っている人が集まり、何か新しい動きができると良い。 ・若い人も多く参加できる交流イベントの開催してみる。角掛神社内の五龍のフジの保存や鮭の遡上会にも若い人が企画から携わるような仕組みをつくる。 ・子ども会と企画を実施することでその親と一緒に地域活動を行う。
新住民に対して地域を知るための取り組みを行う	・各自治会だよりを紙以外での発信を検討する。ゴミステーションに張り出す。 ・地域の祭りやまち歩き会の開催を行い、地域を知ってもらう企画を作る。 ・ゴミステーションを活用したクイズ大会(地域を知るため)を開催する。

地域の宝物

私たちの地域には、自然・歴史・文化に育まれた伝統芸能・食文化・景観・自然環境など、次の世代に継承したい宝物があります。



元村子どもさんさ



諸葛川の鮭の遡上



元村リンゴ畑

りんご/スイカ



ストーンサークル

地域の今

人口のデータ等を挿入予定

計画策定の流れ

年月日	内容
令和4年5月24日	第1次計画の振り返りワークショップ開催
8月20日	第1回ワークショップ開催（現状と課題、まちづくりの方向性の協議）
9月24日	第2回ワークショップ開催（まちづくりの方向性の確認、具体的な取組のアイデア出し）
10月22日	第3回ワークショップ開催（具体的な取組の協議と計画案全体の確認）
11月26日	元村地区自治会連絡協議会にて計画案を説明
令和5年3月完成	第2次滝沢市総合計画 元村地域 地域別計画（幸せ向上活動プラン）完成